

東京書籍の

新選歴史総合ワークノート 要点マスター世界史探究

資料を活用する力を育てます！

新課程の「歴史総合」・「世界史探究」では、資料活用力が重視されています。東京書籍の準拠教材では、多様な資料を用いた読み取りの課題に取り組むことができ、資料を読み取る力を養います。

第3章 章末演習 資料活用演習

作業 1 絵画資料と年表から読み取る

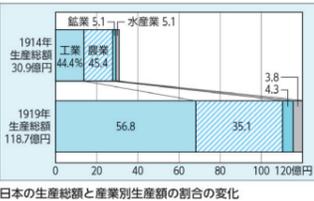
工場に徴用される女性たち

1893	ニュージーランド
1906	フィンランド
1917	オランダ
	ロシア(ソ連)
1918	イギリス
1919	ドイツ
1920	アメリカ
1934	トルコ
1944	フランス
1945	日本

女性参政権の獲得年

総力戦となった第一次世界大戦は、女性の社会参加にどのような影響を与えたのだろうか、左のポスターと年表から考えてみよう。

作業 2 グラフと写真から読み取る



章末の「資料活用演習」では、複数の資料を組み合わせた問題などを提示しています。

作業 3 写真から読み取る



左の写真から、第一次世界大戦がおこった背景を考案する。インドの民族運動の特徴

62 第3章 章末演習 資料活用演習

教科書に掲載されていない資料もたくさん取り上げられているので、資料を読み取る力は準拠教材でバッチリですね！



第14章 章末演習

資料活用

作業 1 文字史料から考える

リヴァプールでは、1840年に上流階級の平均寿命は35歳で、商人および比較的恵まれた地位にある手工業者の平均寿命は22歳、労働者や日雇い人夫および被雇用階級一般の平均寿命はわずか15歳であった。

活況の時期には、少女たちは朝の何時に工場に行ったか。
—活況の時期には、それは6週間ばかりの時期ですが、少女たちは朝の3時には工場へ行き、仕事を終えるのは夜10時から10時半近くでした。19時間の労働のあいだに休息あるいは休養のためにどれだけの休憩時間を与えられたか。
—朝食に15分、昼食に30分、そして飲料を取る時間に15分間です。

資料1 イギリスの労働人口の衛生状況に関する報告書(1842年) 資料2 イギリスの工場における児童労働の実態(1832年、我相)に関する報告書(1842年)

資料1・2は、19世紀半ばのイギリスでの労働状況に関する調査である。

- (1) 資料1からはどのようなことが読み取れるだろうか。
- (2) 資料2からはどのようなことが読み取れるだろうか。
- (3) 資料1・2のような問題は、当時のイギリスでおきた大きな変化が背景にある。どのような変化だろうか。また、これを解決するためにどのような動きがあったか、考えてみよう。

作業 2 写真から考える



写真のような現在のパリの街並みは、第二帝政期のフランスで皇帝主導のもとに行われた大改造によってつくられた。この大改造では、上下水道の整備や、有名なオペラ座の建築も行われた。

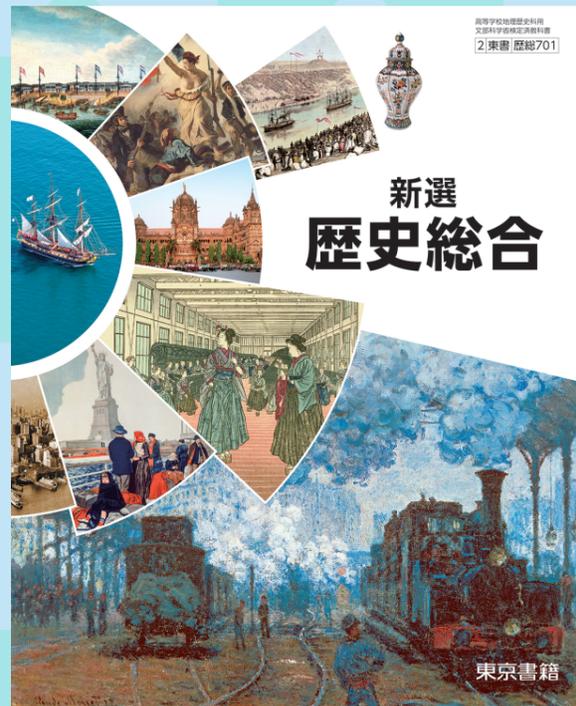
- (1) 現在のパリの街並みには、どのような特徴があるだろうか。
- (2) この大改造を行った皇帝は誰か。
- (3) (2)はなぜこのような都市改造を行ったのか、当時のフランスの状況からその意図を考えてみよう。

184 | 第14章 章末演習

東京書籍の

世界史探究

世探701



「総合」から「探究」へ



新選歴史総合との接続がスムーズです！

令和5年度用 内容解説資料 (世探701)

シャカイカ先生。「歴史総合」の授業の準備を進めているのですが、このあと履修する「世界史探究」に接続しやすい内容を取り込みたいと思っています…。どのようにしたらよいのでしょうか？



イカにも！たとえば「立憲制」について、「歴史総合」では日本を含めた世界の「立憲制」の潮流を学習し、「世界史探究」ではそれぞれの地域の歴史に位置づけて「立憲制」を学習するのじゃ。「歴史総合」で世界の潮流を学習しておくから、「探究」では個別の事象への理解が深まるだけでなく、歴史の展開を構造的に理解することができるのじゃ。

それなら、「歴史総合」では個別の歴史事象にフォーカスするのではなく、世界全体の動き、さらにそのなかに日本を位置づけて、近現代史の大枠をつかめるように教えるのはどうかのう。



「総合」から「探究」にスムーズに接続できるんですね！ただ具体的にどのように授業を進めればよいのか、まだ少しイメージができません…。

「歴史総合」の共通テストサンプル問題でも世界と日本の憲法を比較する問題が出題されましたが、このような視点で歴史を学ぶということでしょうか？



本紙2・3ページで「総合」から「探究」への接続の具体的なイメージを紹介しておるぞ。ほかにも、本紙4ページで紹介している準拠教材をうまく活用してみてもいいかもしれないのう。

教科書と準拠教材を有効に使用して「接続」を意識した授業をする…。イカしてますね、先生！さっそく教材研究に移ります！



それぞれの「オスマン帝国憲法(ミドハト憲法)」を取り上げているページを例に紹介するのじゃ。

新選 歴史総合

19世紀後半の立憲制の潮流に位置づけて理解します。

19世紀に広がった立憲制には、どのような類似点と相違点があったのだろうか。

世界と日本を一体的に捉える視点からの問いを提示しています。

30条 1)すべてのプロイセン人は、刑法に違反しない目的のために、結社を結成する権利を有する。
2)法律は、特に公共の安全の維持のために、本条および前条によって保証される権利の行使を規制する。

第46条 国王は軍の最高指揮権をとる。
第62条 立法権は、国王と二つの議院によって共同して行使される。

1 プロイセン憲法(1850年)

5 大日本帝国憲法(1889年)

5 天皇 大日本帝国憲法第1条 天皇は神聖にして侵すべからざる。第2条 天皇は陸海軍ヲ統帥ス。第29条 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行ノ集會及結社ノ自由ヲ有ス

1 統率・指揮すること。 **2** 印刷して発行すること。

1 憲法発布式典 大日本帝国憲法は天皇から黒田首相に手わたされた。

よみとり 二つの憲法の条文を比べてみよう。類似点と相違点はどこだろうか。

これからは、「憲法」が必要だ
19世紀に広がった立憲制には、どのような類似点と相違点があったのだろうか。

5 立憲制の広まり

このページのキーワード **立憲制**

1 1848年のフランス革命
2 1871年のドイツ統一
3 1861年のイタリア統一

1 立憲制の定着と新しい立憲制国家

ヨーロッパでは、1848年以降、立憲制の導入やナショナリズムによる国家形成の動きを強め、支配者もこれを無視することはできなくなった。

プロイセンでは、1848年革命が挫折するなかで、君主権が強い型の憲法が制定された。その後、プロイセンは、軍事力と経済成長を背景に、ドイツの統一に向けて主導権をにぎり、宰相ビスマルクのもとで第二帝政下のフランスとの戦争に勝利した。この戦争のなかで、1871年、ドイツ帝国が成立した。

イタリアのナショナリズムも、立憲君主制を導入したサルディニア王国が主導するようになり、1861年にはイタリア統一が実現した。

一方、戦争に敗れたフランスでは、ドイツとの講和に反発したパリの民衆が蜂起してパリ・コミュンとよばれる政権を一時的に樹立した。これは短期間で鎮圧されたものの、次第に共和制が定着した(第三共和政)。この時期には、イギリスでは自由党と保守党による二大政党制が発展し、両党が交代しながら政権を担当した。そのなかで選挙権も拡大され、英仏両国では立憲制の定着が進んだ。

欧米において、程度の差こそあれ、立憲制が定着すると、アジアでもこれを模倣して立憲制の導入をはかる国があらわれた。

よみとり イギリスにはいわゆる憲法が存在せず、「マグナ・カルタ(大憲章)」などさまざまな歴史的法規や判例などが憲法とみなされているよ。

ミドハト・パシャ (1822-84)

民族・宗教をこえた「オスマン臣民」としての結集を訴え、みずから「新オスマン人」と称した改革派の一人。アブデュルハミド2世のスルタン即位にもない大宰相に就任。1876年、憲法制定を実現させた(ミドハト憲法)。しかし、ロシアと開戦するとスルタンと対立、パシャは失脚した。憲法は停止され、スルタンの専制政治が復活したが、憲法の復活を求める運動がおり、1908年、スルタンは復活を受け入れた。

1 オスマン帝国の議会の様子

2 アジアにおける立憲制と大日本帝国憲法

1876年、オスマン帝国では、法治国家であると内外に示すことを目的に、ミドハト・パシャのもとで憲法が公布された。しかし、スルタンは1878年にはロシアとの戦争を理由に憲法を停止し、専制政治を行った。1870年代から80年代の日本では、明治維新後の新しい国家のあり方が模倣され、欧米の思想を学んだ知識人や、地方の人々も参加して、民主化を求める自由民権運動が巻き起こり、さまざまな憲法案が民間からも発表された。政府も欧米モデルの近代化をはかる制度改革の一環として憲法制定をめざしており、1881年に、10年後に国会を開議するという勅諭を発した。

この時、君主権の強いプロイセン型の憲法を採用することが政府の方針となり、伊藤博文がヨーロッパにわたって、ドイツやオーストリアで憲法の内容と運用の実態について調査した。これをふまえて、1889年、天皇が定める欽定憲法として、大日本帝国憲法が公布された。天皇はすべての統治権を有したが、それはさまざまな機関に委ねられて執行されるしくみであった。立法権を担ったのは衆議院と貴族院からなる帝国議会で、衆議院議員は選挙により選ばれたが、選挙権は当初は一定の税金をおさめる男性に限定された。帝国憲法には言論・出版・集会・結社の自由などの人権も規定されたが、いづれも法律の範囲内でしか認められなかった。

各国の憲法は、共通性をもちつつ、各国家の成り立ちを反映して、それぞれの特徴をもっていた。

3 大日本帝国の統治機関のうち、憲法上の機関と憲法外の機関をわけてみよう。

4 近代国家の形成において、憲法制定はどのような意味をもったのだろうか、考えてみよう。

16 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行

アジア諸国は自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのだろうか。また、欧米列強はなぜアジアアフリカなどに進出しようとしたのだろうか。

1 イギリスの雑誌に掲載された紅茶の広告(1897年)

2 セイロンのティープランテーション(1900年ごろ)

19世紀前半、アジアアフリカでは多くの国々が統治体制の再編をせまられていた。一方で、技術の進歩を背景に工業化をなしたヨーロッパ諸国が、原料供給地と市場を求めて従来の交易拠点からさらに支配地域を拡大し、植民地を建設して農業や採掘を直接手がけるようになった。

アフリカでは、イギリスやフランスなどにより、現地の人々を無視して分割がすすめられ、多くの土地や資源がヨーロッパ諸国に占有された。オスマン帝国では、19世紀を通じて行政・司法、さらには立憲改革がすすめられた。エジプトやギリシアの、またバルカン半島の諸民族の自立・独立が認められるなど、帝国の解体がすすんだ。イランは、19世紀にはロシアとイギリスの勢力抗争の場となり、中央アジアでは諸汗国がロシアに併合されるなどした。

南アジアでは、インド帝国成立後、民族資本の成長がみられたが、社会内部の格差と不平等が拡大した。イギリス人も参加する種族な団体として組織されたインド国民会議は、その要求が受け入れられないとだに民族運動組織に転化した。東南アジアでは、19世紀を通じてジャマ(タイ)を除く全地域が列強の植民地となり、その広範囲の多くがのちの国民国家の境界線となった。

東アジアでは、18世紀末には開港場の開港に達して統治の再編を求められていた清が、列強とのあいつく戦争に敗北して、国力を低下させていた。それに対して軍の近代化などの内政改革が試みられたが、増地がくりかえされ社会への溝が深まっていた。一方で、日本は明治維新で近代国家建設をすすめて強国への道を歩み、朝鮮は清との従軍の関係を維持しつつ改革を試みた。

世界史 探究

西アジア諸国の変革のなかで扱います。

章の扉では、当該の章で扱う内容を概観しており、世界の歴史の大きな枠組みを捉えることができます。

西アジア諸国に焦点化した問いを提示しています。

列強に軍事的・経済的に支配された西アジアの諸国では、どのような変革が生じ、また、それらは互いにどのように関連しあっていたのだろうか。

2 西アジア・中央アジアの変革

オスマン帝国の危機への対応 19世紀にヨーロッパ諸国との通商が拡大するなかで、非ムスリム商人が、ヨーロッパ諸国の庇護を受けるなどして、国際貿易で利益をあげていた。このことがムスリムの不満のもととなり、ムスリムと非ムスリムの対立を生む背景となった。また、バルカン地方では、ムスリム地主とキリスト教徒農民の対立から、キリスト教徒の反乱がしばしば生じていた。さらに、19世紀後半にはバルカン諸民族の間で民族運動が活発化していた。こうした事態は、列強にキリスト教徒保護を口実に介入する機会を与え、それに対してオスマン帝国は譲歩をせまられていた。

1860年代から、政府に不満をもつ若手官僚が、自らを「新オスマン人」と称して、出版を通じて立憲政をめざす運動を展開した。これを背景に、1876年、バルカン半島のキリスト教徒反乱に端を発する危機のなかで、改革派官僚ミドハト・パシャが起草した憲法草案をもとに、オスマン帝国憲法(ミドハト憲法)が公布された。翌年には議院も開設されたが、同年、ロシアがバルカン半島のスラヴ系民族の救済を名目にオスマン帝国と戦いはじめると、それを口実に78年、アブデュルハミド2世は議院を解散し、憲法を停止して、スルタンによる専制政治を復活させた。しかし、戦争はオスマン帝国の敗北に終わり、ヨーロッパ列強によるベルリン会議で、バルカン半島の諸民族国家の独立と自立が認められ、帝国はバルカン半島の領土の過半を失った。帝国領のムスリム人口の比重の増加を背景に、スルタンは自らのカリフとしての地位を強調し、アラブ人など帝国内のムスリムの統合をはかった。同時に、国外のムスリムにも連帯とカリフへの支持をうたえかけることで、イギリスなどの列強を警戒させた(パン・イスラーム主義)。

世界経済と直結した19世紀のオスマン帝国では、イギリス綿製品の輸入が急増し、土着の産業に打撃を与えた。しかし、綿織物業は輸入綿糸を用いた国内向け生産を行うことで生きのびた。また、絨毯産業はヨーロッパへの輸出向けの生産で活況を呈した。こうした産業は、しばしば女性を安価な労働力として用いることによって支えられていた。

1 列強に軍事的・経済的に支配された西アジアの諸国では、どのような変革が生じ、また、それらは互いにどのように関連しあっていたのだろうか。

オスマン帝国憲法(ミドハト憲法)

第4条 スルタン陛下は、カリフ位によりイスラームの守護者であり、全オスマン臣民の先首としてスルタンである。

第8条 オスマン国籍を有する者は全て、いかなる宗教及び宗派に属していても、例外なくオスマン人と称される。(後略)

第9条 全てオスマン人は個人の自由を有し、他者の自由を侵さない義務を負う。

第11条 オスマン帝国の国教はイスラームである。この原則を遵守し、かつ人民の安全又は公序良俗を侵さない限り、オスマン帝国領において認められているあらゆる宗教行為の自由、及び諸々の宗派共同体に与えられたきた宗教的特権の継承通りの行使は、国家の保障の下にある。

第17条 全てオスマン人は法律の前に平等であり、宗教宗派上の事項を除き、国に対する権利及び義務において平等である。

第18条 オスマン臣民が公務に任用されるためには、国家の公用語であるトルコ語を解することが条件である。(附録編「トルコにおける議会制の展開」を一部改定)

1 オスマン帝国憲法にはどのような特徴があるだろうか。また、それまでのオスマン帝国の改革や変化がどのように反映されているだろうか。

よみとり 二つの憲法の条文を比べてみよう。類似点と相違点はどこだろうか。

資料 「立憲制」という概念を理解するために、各国の憲法を比較・考察します。

本文の流れ

	立憲制	アジア	日本
ヨーロッパ	プロイセン ・プロイセン憲法 ・ドイツ帝国	オスマン帝国 ・ミドハト憲法 →停止、専制政治	・自由民権運動 ・大日本帝国憲法
イタリア統一			
フランス ・第三共和政			

立憲制の定着 → アジアへの流入

本文の流れ

西アジア・中央アジアの変革		
オスマン帝国	エジプト 北アフリカ イラン アフガニスタン 中央アジア	イスラーム 改革運動
・ムスリムと非ムスリムの対立 ・ミドハト憲法 →停止、専制政治 ・領土の喪失 ・パン・イスラーム主義 ・青年トルコ革命 ・第1次バルカン戦争		

列強に対して劣勢に立たされた西アジア諸国の変革

よみとり オスマン帝国憲法にはどのような特徴があるだろうか。また、それまでのオスマン帝国の改革や変化がどのように反映されているだろうか。

資料 憲法制定までのオスマン帝国の改革や変化がどのように反映されているか、という点に着目します。